

文献の変遷を可視化するテキストデータ分析に関するデザイン方法研究：『記者ハンドブック』と『美育文化』の事例として

応, 夢

<https://hdl.handle.net/2324/7363801>

出版情報：Kyushu University, 2024, 博士（芸術工学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：



氏 名	応 夢			
論 文 名	文献の変遷を可視化するテキストデータ分析に関するデザイン方法研究—『記者ハンドブック』と『美育文化』の事例として			
論文調査委員	主 査	九州大学	教授	尾方 義人
	副 査	九州大学	准教授	栗山 斉
	副 査	九州大学	准教授	井上 大介

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は、「文献の変遷を可視化するテキストデータ分析に関するデザイン方法研究—『記者ハンドブック』と『美育文化』の事例として」と題し、以下の論述がされている。

第1章では、情報技術の進化とデータ量の増加に伴い、現代社会が直面する「ビッグデータ」時代の課題に焦点を当てた。特に、文献情報の分析が従来の手法では困難を伴うこと、またデータの複雑性が増すことで、単純な検索や分類だけでは有効な知見を抽出することが難しくなっている点を指摘した。

第2章では、歴史的変遷情報の可視化に関する基本概念を整理し、その必要性と意義を検討した。まず、文献研究の動向と現状を分析し、特に社会的課題や政策決定の文脈において情報可視化がどのように活用されうるかを考察した。この分析を通じて、文献研究における可視化手法の必要性が明確になった。可視化は単にデータを「見やすくする」ための手段ではなく、データの洞察を深め、社会理解を進展させるための重要なツールとして機能する。続いて、テキストマイニングの基礎理論を解説し、大量のテキストデータ分析における有用性を示した。

第3章では、実証研究として『記者ハンドブック』を対象とし、差別語の歴史的変遷を分析した。この研究では、デザイン学アプローチに基づき、ポスターを用いた視覚化分析を実施した。これにより、差別語の言い換えが時代の変化とともにどのように進行してきたかを明らかにし、社会における公正性や平等性の発展との関連性を示した。

第4章では、1950年代から60年代にかけての『美育文化』誌を対象に、計量テキスト分析を行った。その結果をポスターを用いて可視化し、「デザイン」に関するテーマの変遷を明確化した。

第5章では、大量のテキストデータを対象とした計量テキスト分析と可視化を行い、デザイン教育や言説の歴史的変遷を探究した。その過程で、文脈や多義性の解釈における課題が浮き彫りとなった。この課題を克服するため、批判的言説分析(CDA)を導入し、この統合的な方法論により、デザイン学研究における大規模テキスト解析の可能性を拡張し、新たな知見の発見と社会的議論への貢献が期待される。

本研究では、歴史的文献の変遷を分析するための可視化手法の有効性を検討し、デザイン学としての新たな視点と方法論を提示した。特に、大量のテキストデータを扱う上で、計量テキスト分析、可視化、批判的言説分析(CDA)を統合することで、より深い洞察を得ることが可能となることを示した。今後の展望としては、さらに高度なデータ処理技術の導入や、異なる学問領域との統合を進めることで、文献研究の方法論を発展させることが期待される。デザイン学における可視化手法の発展は、社会的課題の解決や文化的背景の理解において、新たな可能性を開くものである。デザイン学の研究の新たな展望を提供しており、よって、博士(芸術工学)の学位論文として適切であると認められた。